

U判定による対策型乳がん検診での超音波検査追加症例選択方法の検討

—平成 27, 28 年度さいたま市地域医療研究費補助事業報告—

<大宮>新都心レディースクリニック¹⁾, マンモエクスサス菅又クリニック²⁾, 蓮見医院³⁾, 大宮双愛病院⁴⁾, 大宮エヴァグリーンクリニック⁵⁾, 宇治病院⁶⁾

甲斐 敏弘¹⁾
菅又 徳孝²⁾, 蓮見 直彦³⁾, 佐藤 行彦⁴⁾
高木 俊二⁵⁾, 宇治 元⁶⁾

で、約8割の受診者は「精検不要」でかつUS追加は「ほぼ不要」と判断したことになる。

また、乳腺濃度とU判定の結果では、高濃度乳房症例と若年世代にU1症例が多く、概ね実態を評価しているものと思われた。

US追加検査では59.0%には異常所見はなく、認められた所見は嚢胞、乳腺症、線維腺腫が多く、乳癌を疑わせる症例はなかった。

さて、USについて考えると、我々の対象集団は、US未経験者は37.6%とかなり高いことが分かった。このUS未検群はUSを2年以内に受けた群と比べ、MMGでの乳腺濃度の違いを知らなかった人が多く、乳がんの情報に関する関心がすこし薄く、自分自身に乳がんが発症する可能性をすこし低めに考えている人達と思われた。

では、今回の試みはUS経験者を増やすことに繋がるのだろうか？

今回U1症例の84.2%がUSを受けたが、U1と判断されたもののUSを受けなかった人達も、別の機会でもUSを受けることが予想された。さらに、U0で「ほぼ不要」とされたにも関わらずUSを希望した人達は、初めてMMG検診を受けた人達が多く、乳腺濃度の知識も無かった人達が多かった。

これらの結果からMMG検診受診者のUSに対する態度を推定すると、乳腺濃度の告知を行い、医師からUSを勧める発言をするならば、多くの人にはUSを受けることになると思われる。特に初回受診者にはこれら介入の効果が高い可能性がある。

一方で、参加施設の側から考えると、乳腺を主たる診療科目としていない3施設では通常業務への圧迫は少なかったものの、乳腺クリニックである2施設は通常業務を圧迫し、うち1施設は時間外にUSを組み入れざるを得ない日々が続いた。著名人の乳がん罹患報道の影響で2施設とも予約電話の対応でさえ繁忙を極める状況下でのパイロットスタディであった。対策型として安定したUS供給体制を考えるならば、施設間の格差も今後課題となってくるであろう。

さて、平成28年6月の読売新聞報道であるが、今回のアンケートでも4.7%の人達がこの報道によって知識を得たことが分かった。そして少なからぬ自治体で「高濃度乳房は告知すべし」との声が上がった。これに答える形で一部の検診団体では告知を開始したが、乳癌治療施設の医師を中心にかなり大きな反響があった。

そもそも論として「高濃度乳房」の判定自体が不安

定で読影医間の一致率は低く、全国のMMG読影医の目合わせも不十分である。また、本来、乳癌の精査診断治療を行うべき専門施設の検査枠が、「高濃度乳房」というだけで来院した受診者によって圧迫されかねない。さらにUSを行えば癌発見感度が上昇するという正の側面だけではなく、特異度が低下するという負の側面がある。極めて多数発見されるであろう良性腫瘍像、判断の難しい境界病変、将来的に増大し「見落とし」と批判されかねない小病変などを認識することになる。必然的に経時的に再検査を行う症例、MRIを受ける症例、細胞診、針生検などの侵襲的検査を受ける症例もまた増加することになる。

この状況に対し平成29年3月21日付けで日本乳癌学会、日本乳癌検診学会、日本乳がん検診精度管理中央機構は共同提言を発表し¹⁾、「対策型検診において乳房の構成を一律に通知することは現時点では時期尚早」とした。

さいたま市大宮地区においても一律に乳腺濃度の告知を行い、高濃度乳房(高濃度+不均一高濃度)のUSを実施することは不可能と言わざるを得ず、現時点でU判定を用いたUS追加症例を選択する方法は一つの落としどころとして実現可能なものである。しかし、乳がん検診に対する知識、情報の提供を行えば、USに対する一般住民の需要がこれまで以上に高まるのは必然で、日本乳がん検診精度管理中央機構などの乳房超音波講習会を定期的で開催し、USのできる医師、技師を増やすための行政、医師会の資金面を含めた協力が必須である。また、現場では乳がん画像研究会のような検診会を定期的で開催し、来たるべきUS併用検診の時代に備えるべきと考える。

結 語

(1) 対策型乳がん検診においてU判定を用いたUS追加症例の選択方法は現時点での実現可能な方法と考えられる。

(2) U1症例でUSを勧められた受診者はその殆どはUSを受けるであろうことが推定された。

(3) 今後のUS体制、特に人的整備について行政、医師会の資金面を含めた協力が必須である。また現場ではMMG、US、病理を含めた乳がん画像の検診会を定期的で開催するなどの取り組みが必要である。

(本論文の一部は第37回日本乳腺甲状腺超音波医学会、

第26回日本乳癌検診学会, 第54回埼玉県医学会総会において発表した。また, パイロットスタディについては大宮医師会倫理委員会(平成28年6月10日)において承認を得た。)

謝辞: 乳がん関連の講演会, 画像研究会において常日頃よりご協力いただいている尾本きよか先生(自治医科大学附属さいたま医療センター臨床検査部教授), 齊藤 毅先生(さいたま赤十字病院乳腺外科部長)に深謝いたします。

文 献

- 1) Bleyer A, Welch HG. Effect of Three Decades of Screening Mammography on Breast-Cancer Incidence. *N Engl J Med* 2012; 367: 1998—2005. DOI: 10.1056/NEJMoal206809.
- 2) Miller AB, Wall C, Baines CJ, et al. Twenty five year follow-up for breast cancer incidence and mortality of the Canadian National Breast Screening Study: randomized screening trial. *BMJ* 348: g366. doi: 10.1136/bmj.g366 (Published 11 February 2014).
- 3) Autier P, Boniol M, Gavin A, et al. Breast cancer mortality in neighboring European countries with different levels of screening but similar access to treatment: trend analysis of WHO mortality database. *BMJ* 2011; 343: d4411.
- 4) 濱島ちさと. 第18回がん検診のあり方検討会議事録. 平成28年6月13日. <http://www.mhlw.go.jp/stf/shingi2/0000130404.html>
- 5) Cossetti RJD, Tyldesley SK, Speers CH, et al. Comparison of Breast Cancer Recurrence and Outcome

Patterns Between Patients Treated From 1986 to 1992 and From 2004 to 2008. *J Clin Oncol* 2015; 33: 65—73.

- 6) Prasad V, Lenzer J, Newman DH. Why cancer screening has never been shown to “save lives” — and what we can do about it. *BMJ* 2016; 352: h6080.
- 7) 斎藤 博: 第18回がん検診のあり方に関する検討会議事録. 平成28年6月13日. <http://www.mhlw.go.jp/stf/shingi2/0000130404.html>
- 8) 甲斐敏弘, 菅又徳孝, 蓮見直彦, 高木俊二, 宇治 元, 尾本きよか. 次世代の乳がん検診に向けての基礎的検討〜マンモグラフィ乳腺濃度判定及び超音波検査導入のための人材育成〜. 平成27年度さいたま市地域医療研究費補助事業報告書. <http://slmc.jp/08/H27houkokusho.pdf>
- 9) 甲斐敏弘, 菅又徳孝, 蓮見直彦, 佐藤行彦, 高木俊二, 湯澤 聡. さいたま市大宮地区乳がん検診発見癌192例の検討. 埼玉県医学会雑誌 2015; 50(1): 15—22.
- 10) 甲斐敏弘, 菅又徳孝, 蓮見直彦, 佐藤行彦, 高木俊二, 宇治 元, 尾本きよか, 齊藤 毅. 乳がん検診の最適化に向けての検討〜大宮医師会方式による乳房超音波検査追加導入の試み〜. 平成28年度さいたま市地域医療研究費補助事業報告書. <http://slmc.jp/08/pi lotstudy2016.pdf>
- 11) 対策型乳がん検診における「高濃度乳房」問題の対応に関する提言. 日本乳癌検診学会・日本乳癌学会・日本乳がん検診精度管理中央機構. 平成29年3月21日. <http://www.jabcs.jp/pages/dbwng.html>